

通過型グループホームに 賛成？反対？

議論の段階から賛否両論あった
通過型グループホーム。
ここでは、賛成・反対それぞれの立場の方に
その理由をうかがいました。

「通過型」に
反対！

生活の場は訓練の場ではない

社会福祉法人創思苑理事長 林淑美

「通過型グループホーム」が創設されようとしています。通過型グループホームは、「一人暮らしをしたい」人たちの希望を実現するためのものとして位置づけられています。しかし、そこは一人暮らしをするための訓練の場とも考えられます。

私は、通過型グループホームは知的障害者の権利を侵す可能性があり、反対です。暮らしの場は、訓練の場ではありません。もちろん、一人暮らしをしたいという希望を実現するための支援は大切です。しかし、方法として通過型グループホームは不適切だと考えます。そこでは目的のための訓練が生活より優先され、そこで生活する知的障害者にとって強い不安やストレスが伴います。自分のペースで暮らせなくなるからです。それは、知的障害者の前向きな気持ちを奪い、心に傷を負わせる可能性もあります。

通過型グループホームには、一定の利用期間が設定されています。一人暮らしが難しい場合は他のグループホームへの移行を支援す

ると示されていますが、一人暮らしが難しいと判断をする基準は明確になっていません。また、現在すでにグループホームで暮らしている人が通過型グループホームを利用した場合、元のグループホームに戻りたいと思っても、すでに他の人が入居して戻るのが難しい場合があります。通過型グループホームを経て一人暮らしを始めたけれど、新しい環境での生活がきつくなってやめなくなった時、どんな支援を受けられるかも明確になっていません。

「訓練のために住む場所を変えられたり、仲間と引き離されるのは嫌だ」「現在のグループホームで暮らしながら、一人暮らしをするための支援が受けられるようにしてほしい」。当事者からはそうした声が聞かれます。一人暮らしやパートナーと住みたい場合に、それを実現する支援の方法は他にもあります。それなのに、なぜいま通過型グループホームが必要なのでしょう。知的障害のある当事者の声にもっと耳を傾けるべきだと思います。